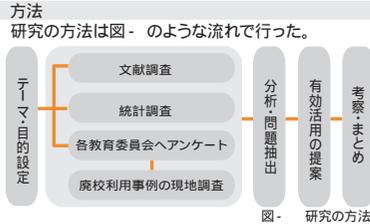


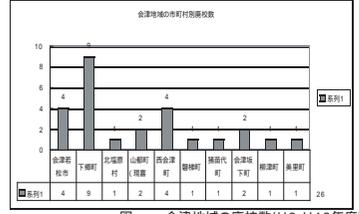
会津地域における住民主体の廃校校舎有効活用計画

a2200526 芳賀 麻梨絵

研究背景及び目的
 「廃校施設の実態調査及び廃校利用状況調査報告書」(文部科学省)によると平成13年までの過去10年間の全国での廃校数は2,125校で、内約7割が小学校となっている。少子化が進行するなかで今後ますます増加するのと思われる。地域の核である学校は重要な資源でもあり、地域の活力を維持する上でも有効に活用するべきだと考える。そこで本研究は、過疎化が進行する会津地域を対象に廃校校舎の現状・実態を把握し、その有効活用について提案することを目的とする。



結果
 1.会津地域の廃校の実態
 図- にみられるように過去10年間に26校の学校が廃校となった。またこれから先廃校となる学校も(平成25年度まで)25校あり、会津坂下町では平成25年までに7校もの学校が廃校となることが分かった。



2.会津地域における廃校利用の実態(市町村別分析)
 村での活用法は、研究施設、宿泊施設、スポーツ施設、温泉の用途で利用されている。町では展示・アトリエ、研究施設、体験・交流施設、宿泊施設、診療施設、スポーツ施設、集会施設、レストラン、老人支援施設、資料館、野外活動、倉庫に利用されており、体験・交流施設が最も多い活用法であった。また、活用されていない校舎も7校と最も多い。市では体験施設、アトリエ、資料館に活用されている。全体としては体験・交流施設が最も多く次いでスポーツ施設、アトリエが挙げられる。

3.全国に見る廃校利用状況(廃校リニューアル50選による市町村別分析)
 村では、宿泊施設が最も多く、次いで体験・交流施設としての活用が多かった。町では体験・交流施設が多かった他に宿泊施設、物産施設としての利用が多かった。市でも体験・交流施設が最も多く次いでアトリエ、資料館・博物館が上げられた。全体を通して体験・交流施設、宿泊施設、物産施設として活用されている例が多かった。結果的には市町村別には大きな差異は見られなかった。

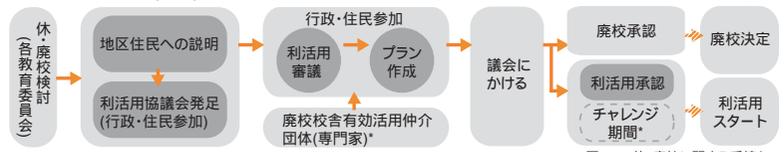
廃校利用に関する提案
 1.廃校校舎有効活用アイデア
 地域資源である廃校を利活用するには、住民が何らかの関わりを持つ環境をつくり、過疎化の進行する地域の衰退を阻止する上でも、地域の活力維持・再生に繋がるプランを作っていく必要がある。そこで具体的な利活用計画として、1.内的活性化、2.外的活性化、3.内外的活性化の3パターンに分類して提案を行う。

<p>共同購入・販売施設 高齢化が進行する中で今まで各世帯が単独に物品を購入していたものを、廃校校舎を拠点として共同購入にて販売する施設。</p>	<p>グループホーム 地域内の独居老人または高齢者世帯を対象に共に生活するグループホームとしての利用。</p>	<p>健康増進施設 高齢化が進んだ地元住民の健康の維持・増進、体力低下・病予防を目的としたインストラクターによる運動(ストレッチ)指導、や体力測定を行う。運動などを通して交流も深まる。診療所機能も付加する。</p>	<p>生産拠点施設 地域の伝統的技術を活かした(手工芸、農産加工等)の生産拠点施設。伝統技術の伝承にも繋がる。</p>
<p>娯楽施設 教室の一部を飲み屋や、カラオケ、卓球場にし、校庭を利用しスポーツ(テニスコート、バドミントン、ドッジボール等)を行う娯楽施設にする。</p>	<p>コミュニティ施設 周辺に集会所が無い場合は集会所として活用したり、会議、地域の知識人や著名人による講習会、工房、料理教室、展示会、個展(コンテスト、作品展示即売)、オラガジマン(漬物自慢、料理自慢、いわゆる自慢大会コンテスト)、絵画教室、地域芸能会(祭り、道具、伝統の保存)、運動会など様々な地域の活動に利用する。</p>	<p>伝統文化記録保存センター(デンブ・アトリエ) 地域の伝統、文化、伝記、昔話、郷土料理等をアーカイブ(記録・保存)し、伝承、情報発信を行う。書籍、絵本、ビデオ等を制作をし販売も行う。</p>	

<p>2)外的活性化 賃貸アトリエ・作家活動拠点施設 教室単位で貸し出すおとを基本とし、地域内の住民に対して、体験教室や講習会等を開催する。地域外の誘客にも繋がる。</p>	<p>セミナーハウス 学生の部活動や勉強のために合宿場として貸し出す。食事の世話に住民たちによって行い、交流を持てるようにする。</p>	<p>体験交流施設 地域内の資源を活用した体験ツアー等(自然を生かしての体験、クロスカンントリー、ハイキング、名水汲み等)を行い、校舎内で伝統料理や文化にふれ交流する施設。</p>	<p>宿泊施設 体験交流施設と運動も可能だが、地域内資源を活用した体験メニュー(屋根の雪下ろし等)と連携して行う施設。</p>	<p>福祉介護施設 首都圏または周辺地域老人が利用する、福祉介護施設にする。地域内住民のサポートにより自然を満喫ながら生活できる。</p>
--	--	--	---	---

<p>3)内外的活性化 レストラン 会津地域の郷土料理を住民が提供し、住民との交流の場とする。昔の懐かしい雰囲気や木の温もりがある木造校舎が特に雰囲気演出として期待される。誘客に当たっては、体験メニュー等が必要。</p>	<p>商店(朝市・夕市) 地域内の農産物等を施設に集約し他地域に販売する拠点としての施設。管理運営は仲介業者(NPO)が考えられる。他地域の廃校校舎とのネットワーク形成も可能。</p>	<p>図書館 市町村の連携を行い、一定期間蔵書するシステム、移動図書館の機能を付加させる。</p>
--	--	---

2.運営に関する問題
 1)休・廃校決定に関する手続き
 行政主体で手続きが進められ地区住民の意志が不在になりがちになることを排除するために、住民を交えて利活用を含めた協議を行う必要がある。図- のように十分に話し合いを進めていき専門家も交えながらプランニングする。利活用開始の前に必要があれば「チャレンジ期間」を設ける。
*「チャレンジ期間」: 協議の後、一定期間利用希望団体に仮利活用期間を設け、再度審議すること。



2)廃校校舎有効活用仲介団体
 地域の活力維持や再生には地域住民の参加や関わりが必須である。経済力・資金力的に苦しい地域では提案力が乏しく、アイデアも出しにくい。そこで利活用に関する専門家のサポート体制が必要であるとする。

3)地域住民の運営への参加
 地域の活力維持・発展のためにも運営主体と住民の関係をイコールに近づけることが望ましい。

3.会津坂下町活用計画に対する検証と空間利用計画
 廃校校舎の事例提案として、現在廃校の利活用計画が進行している会津坂下町坂本分校を対象に、計画に対するプラン検証と空間の活用法について、提案する。

1F 平面図 1/500

2F 平面図 1/500

1)現在の利活用計画
 利用団体-NPO法人 寺子屋方丈舎*が来年度より下記のような計画内容で展開し主に子どもを対象とした施設になる予定(常勤2名)。
*自然体験(野外活動・キャンプ・農作業体験)・クラフト作り・交流の場・グリーンツーリズム活動拠点(パンフ配布・農泊等)・分校の駅(トイレ休憩・お祭のサービスマップの収集・マップ配布)・若者社会参画支援インフォメーションセンター(就業体験事業コーディネーター)

2)空間利活用計画提案
 必要とされる機能(付加機能・住民介在機能)
 ・子どもの居場所コーナー・宿泊(研修)機能・交流広場・談話室・休憩コーナー・体験コーナー・情報提供収集コーナー(インターネットコーナー)・入浴設備・キッチン・トイレ(現在は小学生用サイズなので要改修)・事務室・収納・駐車場・展示コーナー・物販コーナー・校庭休廊スポット・住民向け時間延長開放機能・蔵書コーナー・イベントに応じてホール等を形成する

*1999年、不登校の子ども達の居場所兼学びの場として会津若松市に設立され、不登校の子ども、若者の社会参画を支援する。